

1月12日(火曜日)

ドル/円

年末年始のドル高トレンドは腰折れ

11日(月)の主な推移

NYダウ平均

10663.99ドル
(+45.80ドル)

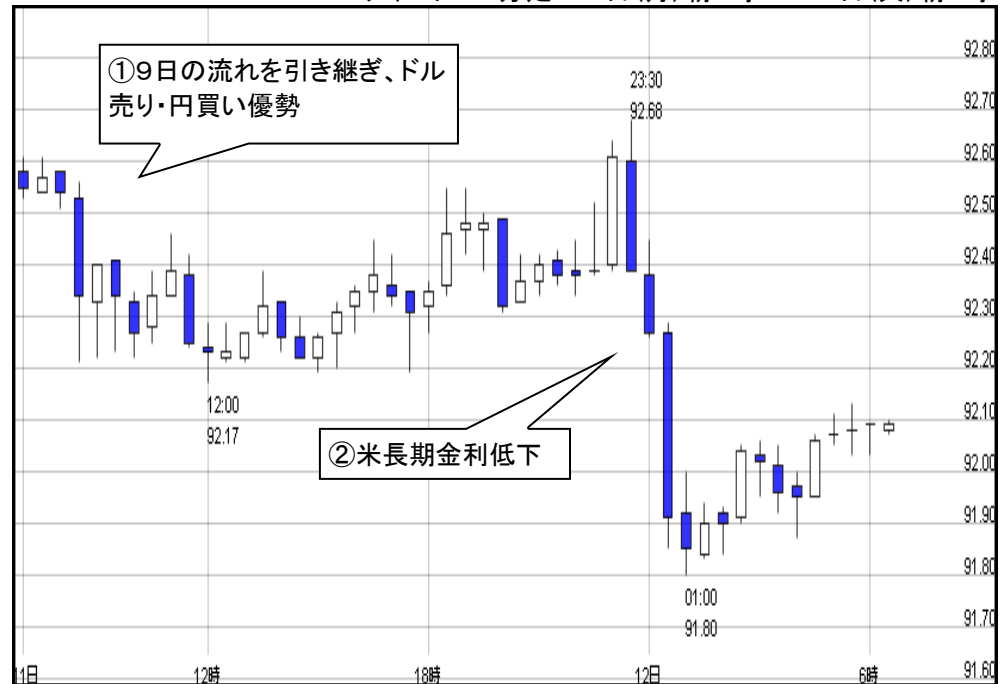
米長期金利
(10年債利回り)

3.8200%
(-0.0136%)

NY原油先物

82.52ドル
(-0.23ドル)

チャート: 30分足 11日(月)朝7時 ~ 12日(火)朝7時



※チャートは30分足 日本時間にて表示 ※左表は終値ベース、()は前日比
出所:外為どっとコム

①

9日に発表された12月の米国雇用統計は、失業率が前月から横ばいの10.0%、焦点の非農業部門雇用者数が前月比8.5万人減少となり、市場予想の±0万人を下回り、米国の早期利上げ観測が大きく後退。発表後にドル売り・円買いが強まり、この動きは週明け11日の取引でも続いた。

②

11日の米国市場では米早期利上げ観測が後退したことで米長期金利が一時3.8%割れ水準まで低下するのに伴い、ドル売り・円買いが活発化。ドル/円は12日未明に5日ぶり安値91.80円を記録した。米長期金利は3.82%に反発して引けたが、ドル/円の戻りは限定的となっている。

上昇要因(ドル高・円安)

- ・米国の経済の回復
- ・米長期金利の上昇
- ・米国の超低金利政策の長期化観測の後退
- ・金融市場全体のドル売りムードの緩和
- ・日銀の追加資金供給
- ・日本政府による市場介入への警戒感
- ・日本の財政赤字への懸念

下落要因(ドル安・円高)

- ・米国の超低金利政策の長期化観測
- ・米長期金利の下落
- ・米国経済の回復の鈍化
- ・外貨準備通貨としてのドル需要の減退
- ・米財政赤字悪化懸念の高まり
- ・金融市場全体のドル売りムードの高まり

本日の見通し

本日の予想レンジ: 91.60-92.50円

本日のドル/円は引き続き、上値は重く、やや下落基調の推移が続くそう。先週末の米雇用統計の発表を受けて、米国の早期利上げ観測がやや後退しており、年末年始のドル高トレンドは期待しづらい状況だ。ただ、米国の政策金利であるFF(フェッド・ファンド)金利の先物市場では、9月のFOMC(米連邦公開市場委員会)で政策金利が0.5%となる確率が11日末時点で35.1%織り込み、9日末時点の34.5%から小幅に上昇する一方、0.75%となる確率は9日の28.2%から25.5%に低下しており、利上げ観測自体は根強く残っており、本日中にドルが大幅に下落する可能性は少なそう。

14日に米小売売上高、15日に米銀大手J.P.モルガンチェースの決算発表を控え、週前半はやや動きづらい状況といえるだろう。

本日の注目イベント

※注目度が高い順に「◎」「○」「無印」で表示 時間は「日本時間」

日付	時間	注目度	経済指標、イベント等	前回発表数値	市場予想
1/12(火)	22:30	○	(米)11月貿易収支	-329億USD	-346億USD
	27:00		(米)3年国債入札(400億ドル)	—	—

※発表時刻は予告なく変更される場合があります。また、※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2010 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com